

# オウム対策住民協議会ニュース

## オウム事件の宗教的

### 動機を見据える

カルト宗教の本当の怖さを知るために

5月12日(土)にオウム真理教対策住民協議会が主催した第24回抗議デモには約250名が参加した。その後、フォトジャーナリストで国際宗教研究所・宗教情報リサーチセンター研究員である藤田庄市氏が「オウム事件の宗教的動機を見据える」の題で、カルト全般について講演された。その内容を以下に要約する。

#### 1. カルトとは？

オウム真理教の前身ヨガ研究会「オウム神仙の会」が80年代に発足し95年に地下鉄サリン事件を起こしたのを初め、80年代には、統一教会の霊感商法やイエスの方舟の娘をかえせ、また、90年代後半には法の華三法行の足裏診断など、カルト騒動が相次いだ。この流れは、摂理・神世界・浄土真宗親鸞会など、現在も続いている。これらのいわゆるカルト宗教とは何かだが、社会問題を引き起こす宗教と定義できる。カルトの場合、我々世俗の良識を共有しないため、足裏診断で600億の布

施を強要し有罪になつても、全財産を布施し出家するのにも、また、させるのも、共に罪悪感はない。世俗では許されない行為を救済という使命感で行っているため、行為は即社会問題にならる。こういう宗教がカルトである。

#### 2. カルトの怖さ

カルトは肉親の情を否定する。例えば、マインドコントロール下にあるオウム信者の場合、兄弟や両親の死をどう感じるかだが、兄が変死したある信



藤田庄市氏講演の様子

#### 3. カルトはなぜ蔓延するか？

心の奥に不安や孤独感を抱いていた人が、ふと宗教に出会い、修行により解脱できるし悟りも開けるのだと説かれ、眠っていた宗教心や信仰心に訴えられ、カルトの扉を開けてしまう。カルトとの出会いはこの形が多い。カルトは、更に、過酷な修行やその結果の神秘体験、修羅道や餓鬼道・地獄道への転生への恐

者は「悲しみが自分の中に入つてこない」と言い、麻原の妻松本知子は「悲しみが体の表面を滑っていく」と表わした。その状態を両者は、懸命な修行のお陰でステージが上がり、悲しみに左右されず自分の心をコントロールできたと喜ぶ。更に、我々から見れば人間的感情を失くしたと映るこのことが、彼らには、生きるだけで悪行を積む偽の世界から離別できた証となる。

怖といった仕組みをテコに信者の心をつかんで離さない。このようにカルトは、自分が演出した増殖装置と社会のひずみを土壌として蔓延してゆく。元オウム真理教幹部早川紀代秀は、「教団の組織防衛のみを目指し、動機において酌量の余地なし」との自身の判決に対し、「自分は宗教的動機で行動したが、裁判では何も理解されなかった。これを解明し、社会として対策を講じない限り再発する」と語り、無念を滲ませていた。

の深い心しかないと考える。これは、オウム裁判での被害者遺族の証言に滲み出る日々生きることへの感謝や、坂本弁護士弱者への献身的生き方などから感じ入ったことである。この深さからみると「自分達は分かっている、彼らは分かっているから救済する」といった使命感はカルト信者の陳腐な優越感の表れで、色褪せた根なし草にしか映らない。普通の人の深い心で、社会全体としてカルトがはびこる土壌の一端を掴むことが、カルトと対峙できる唯一の道と確信する。

#### 4. カルトに対峙できるものは？

カルトに対峙出来るのは普通の人間

## 住民協議会会長就任挨拶

烏山地域オウム真理教対策住民協議会会長 甲斐円治郎

4月20日(金)に開催された住民協議会に於きまして、任期半ばで急逝された前会長、田中光男氏の後任として会長に選出され就任いたしました。

戦いの相手はひかりの輪となりまして、4名の「外部監査人」を迎え、安全な団体であることのアピールに懸命となっております。

会長という重責を担うにあたり、微力ながら一意専心、協議会の発展に全力を傾注する所存でありますので、前任者同様、格別のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

私はその先頭に立つ決意しておりますので、重ねてご支援ご協力をお願い申し上げます。

さて、アレフは11年間にわたり烏山地域に居住した後、昨年3月に足立区入谷に移転しました。これは、地域住民の皆さまのご支援と、住民協議会の粘り強く幅広い活動によって結実したと言つても過言ではありません。現在は上祐史浩率いるひかりの輪10数名が、依然として居住を継続しておりますが、今回ひかりの輪は松本サリン事件で奥様を亡くされた河野義行氏を始

め、4名の「外部監査人」を迎え、安全な団体であることのアピールに懸命となっております。戦いの相手はひかりの輪となりまして、4名の「外部監査人」を迎え、安全な団体であることのアピールに懸命となっております。



## 第24回抗議デモ・学習会のアンケート報告

【実施日】 2012年5月12日(土)

【回収枚数】 44枚

【開催情報の入手方法】

協議会ニュース14、チラシ8、町会自治会回覧21、その他11

【学習会への感想】

- ・カルトの世界は私達の理解の及ばないところにあるということが分かる内容だった。参考となった。カルトの世界から私達の世界に戻す方法があるのか？暗然とした。
- ・宗教という難しいテーマを有難うございました。
- ・あまり良く分からなかった。難しい。
- ・藤田さんのいう心の自由の拡大の意見が多少分かってきたし、その通りだと思います。
- ・カルト宗教(特にオウム事件)がなぜおこったのかを我々は本当の意味で検証が必要と感じた。
- ・今までと違う切り口で興味深かった。
- ・宗教教育を受けていない日本は、カルト宗教への耐性がない。この点、今回の学習会は良かったと思う。
- ・宗教の問題をカルトに的を絞り、分かりやすいお話し

でした。

- ・非常に難しい趣旨でしたし、オウム事件を過大視することに疑問を感じるころもありましたが、改めてカルト宗教の心理を考えてみたいと思いました。

【協議会活動への皆さまの感想】

- ・本当に頭が下がります。感謝です。
- ・これからもなにか協力できることがあれば、お手伝いしたいと思っております。
- ・毎年デモに参加しており、今日はデモした感じがした。相手方の考えが少し聞こえた気がした。
- ・毎回参加のたびに忘却と無関心こそが最大の課題であることを自覚し、気を引き締め直すように心掛けています。デモのたびに「あの子供達はオウムを知らない世代なんだな」とこちらをみる若い人々を見て思います。

色々なご意見、有難うございました。昨年は、アレフが足立区に移転するなど、状況が変化しましたが、皆さまの意見を参考にして、活動を続けます。今後ともご支援をお願い致します。(編集子)

## デモと学習会に参加して〔投稿〕

先日、5月12日に第24回目を迎えた抗議デモと学習会に参加した。1995年の忌まわしい地下鉄サリン事件からすでに17年の月日が経つ。そして、私たちの町、烏山に本拠を移し、その後「アレフ」「ひかりの輪」となり、周辺の住民が不安を募らせた。

私もその一人であったが、デモ行進や学習会に参加したのは今回が初めて。参加すると、これらのことを風化させてはいけないという意識の高さを感じ取られた。確かにアレフは烏山から去ったが、ひかりの輪はいまだに烏山に存在している。忘れてはいけない事実だ。

私が誤解していたのは、この運動の目的が「オウム真理教は烏山から出て行け」ということだと思っていた事。実は、団体の解散・解体を目標としているのだと知ったのは、一緒に歩いた方の話からだった。春に行われた運動資金捻出のためのバザーや、デモの後に開催された学習会など、熱心に続けられている住民協議会の皆さ

んの思いを強く感じ、共感した。

最近では、逃亡していた元信者が逮捕された事が記憶に新しいが、何か起きないと思えないという現状が、いずれ風化を招く。私は、団体が解散・解体するその日まで、情報を発信し続ける力を持つことの大切さを改めて知った。



## 住民協議会活動報告

5月 7日(月) 抗議デモ・学習会ビラ配布  
5月 7日(月) 事務局会議  
5月12日(土) 第24回抗議デモ・学習会  
5月24日(木) 実行委員会

5月28日(月) 協議会ニュース116号初校正  
6月 2日(土) 第3回下町まつりで募金活動  
6月 4日(月) 協議会ニュース116号再校正  
6月 5日(火) 事務局会議  
6月12日(火) 協議会ニュース116号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。